

# 令和2年度 島根県立益田養護学校 学校評価

## ①児童生徒が安心して学校生活を送ることができるとともに安全な環境づくりの推進

評価基準に沿った達成状況  
A:達成9割以上 B:7割以上9割未満 C:5割以上7割未満 D:5割未満 E:分らない

分野名	重点目標 (分野・学部)	評価項目	評価方法及び★基準	評価点	結果と課題	次年度に向けて改善策	学校関係者評価
総務	①教職員と保護者、地域関係機関と連携共有を深め、学校行事やPTA活動を進めたい。	・PTAおよびPTA会報(つしんぼ)・学校新聞を通し、PTAの活動状況や思い等を教職員に配布、掲示、回覧などにより知らせたい。	・PTAだより:6回/年、PTA会報:2回/年、学校新聞:3回/年を発行する。保護者は配布、教職員は、メール配信または掲示で通知。★実績 ・役員会や事前アンケートで日程や内容の相談、決定(案)が持てるような取組。事後アンケートを実施。 ★実績、肯定的な意見が以上。	A	便りや会報など、計画通り発行することができた。保護者には配布し、教職員にはメール配信することができた。	PTA行事や研修会、活動の様子を来年度もたよりや会報でダイアリーに伝えていきたい。	○総務 実施に当たって評価項目を設定し、結果と課題、次年度に向けた改善策まで詳しく検討されている。D評価はあるが、現状より少しの努力で達成できる目標設定や評価方法、評価基準を設定し、よりよい指導や支援につなげてほしい。 コロナ禍で行事等の実施に苦慮されているが、本年度は希望の場も活動ができるようにしたい。
		・PTA活動やPTA行事について役員会や事前アンケートなどで意見をまとめた、活動内容や活動方法を工夫する。	・各種行事 ・入学式、卒業式準備 ★実績状況 ・児童生徒会活動、赤白活動 ★実績状況 ・目安箱 ★集約回数	A	新型コロナウイルスの影響を受け、例年と同じように行事を展開することは難しくなったが、執行部が中心となつてアイデアを出し、今までにない形で行事を実施することができた。ただ、あらゆる状況を確認する必要があるため、例年よりも立案までに時間がかかってしまった。目安箱については毎月1回のペースで実施し、セクションや学部会など子ども達の意見について話し合うことができた。	新型コロナウイルスの影響を受け、例年と同じように行事を展開することは難しくなったが、執行部が中心となつてアイデアを出し、今までにない形で行事を実施することができた。ただ、あらゆる状況を確認する必要があるため、例年よりも立案までに時間がかかってしまった。目安箱については毎月1回のペースで実施し、セクションや学部会など子ども達の意見について話し合うことができた。	今年度の行事の運営方法を参考にしながら、状況に応じた活動の数を立て、全体計画を早めに提案できるように努めていきたい。
子ども支援	①児童生徒の主体性と意欲を引き出すために、安心して活動できるような支援を講じるとともに、安全に活動できるように、環境を整備する。	・【子ども指導・健康教育共通】 学校生活を安全に送ることができるよう、安全点検や環境整備、シミュレーションなどの予防的取組を定期的に実施し、それにより教職員や児童生徒が安心感を得られるようにする。	・各種シミュレーションの実施とマニュアルの改善 ★実績状況 ・校内設備の点検、プールの安全管理 ★実績状況 ・ヒヤリハットの集約 ★学部等での分析・研究会開催 ・医療的ケア体制の整備 ★委員会実施回	B	年度当初予定していた各種安全点検や環境整備、医療的ケア体制の整備、ヒヤリハットの集約などは計画通り実施することができたが、各種シミュレーションは新型コロナウイルスの影響で例年とは異なる方法での実施となった。予防的取組を講じているが、シミュレーションは起こってしまいがちで、当日と該当学部会の振り返りを毎月行った。	全てのトラブルやアクシデント、インシデントの再発防止のための情報が全ての教職員に行き届くよう、伝達方法の改善に努めていきたい。全体に関わるよう集約したこれまででもお口頭で周知をし、それ以外に関する情報はメールでも共有フォルダに入れ、閲覧できるようにしていきたい。	
		・【健康教育】 ・保健たより、食育たよりとおして健康教育に関する情報を児童生徒や保護者に適宜発信する。	・保健たより ★発行回数 ・食育たより ★発行回数	A	毎月定期に発行しており、時期に応じた健康情報を発信した。	さらに児童生徒の実態に即した健康情報を適宜発信していきたい。	
進路	①児童生徒が自分の生活や卒業後の生活に見通しをもつことができるように、支援機関と連携したり、必要な関係機関へ働きかけ、必要に応じて相談会をもつ。	・児童生徒や保護者からの質問や疑問について担任と連携し、必要な情報を提供していく。	○相談会での情報共有 ★実績	B	進路だよりは現在7回発行している。3月までのところで合計9回発行の予定。保護者が知りたい内容を進路だよりに取り上げることができた。7月と9月の個別の進路相談会を実施。2月・9月に高2個別の進路相談会、高3移行支援会議を実施予定。	懸念や、進路研修会を取り上げる内容について、学部や学年に合わせた内容や、保護者のニーズに応じた内容を情報提供していただく。関係機関の意見を取り入れ、実施の仕方を検討し、進路だよりをまとめる必要がある。	
		・児童生徒及び保護者、教職員へ情報共有の教育に関する情報を提供・発信する。	○通信の発行 ★年2回	A	11月まで27回)また、学部会において、各学年より年度状況や報告などのトピックを身の回りごとにもっと増やしていきたいのでその使いかたについて、各家庭でも話しをもらえるようにしていきたい。	近年、情報セキュリティの知識を身に付ける必要性が高まっているので、そのニーズに応じた活用情報を提供できるように取組を選択して発信していく。	○図書館活用 子どもの発達と離れたいわゆる昨今、図書館の役割は大きい。児童生徒の発達段階や興味関心を踏まえた蔵書の整備、授業等での一層の活用を期待する。
情報管理	①2児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した教育を推進し、情報を提供・発信する。	・図書室の利用を促進するために、学校図書と連携し、図書の利用や管理したり、図書借りの発行やイベント等を実施した。	○借りの発行 ★年10回	D	各家庭での読書や、コロナ開演の影響で急な購入図書の変更があった。年度途中で借りの発行が滞り発生することができなかった。借りた回数でも対象が保護者・児童生徒と教員で、知りたい情報も変わってくるので、内容をよく構成していく必要がある。	図書室をより活用してもらえるように、保護者・児童生徒向けの借りの発行や向けに向けて、伝えし内容を工夫したり、A3面での発行をA4面にして、伝達内容を精選し、読みやすいようにしていきたい。	
		・保護者・支援者と情報共有し、生徒が安心して活動できるように、学びに向かいやすい学習環境設定に努める。	○生徒の実態に応じた「学校生活アンケート」を学期に1回実施し、生徒の気持ちを踏まえて、改善策を講じる。 ★実績	A	1学期末・2学期末に、各学年で「学校生活アンケート」を実施した。文章での理解が難しい生徒には、イラストや写真を用いたアンケートを実施した。また、アンケートの回答に対して、個別に面談で話しをする機会を設けた。友達関係の悪いことを話して聞けるなど、生徒が気持ちよくアンケートを提出することができた。	伝える力の実態によつては、「学校生活アンケート」では汲み取れないところがある。「伝える力」が育つ関係性の構築や、生徒のスキルアップに努めていきたい。	
中学校	①保護者・支援者と情報共有し、生徒が安心して活動できるように、学びに向かいやすい学習環境設定に努める。	・「生徒に関する情報交換を密にして保護者・支援者との共通理解を深め、学習環境や教材、支援方法を工夫する。	○情報交換の機会 ○PTA会、学部会において、生徒に関する情報共有 ○PTA会、学部会において、生徒に関する情報共有 ○PTA会、学部会において、生徒に関する情報共有 ○PTA会、学部会において、生徒に関する情報共有	A	毎週水曜日にPTA会を実施し、生徒についての情報共有や支援について意見交換を行うことができた。また、PTA会の記録は、学部内で回覧する時間を設け、情報共有を行った。実態把握をとり、支援の方向性を確認した。	次年度も、PTA会が定期的に実施できるように教員同士を組む。教員間で情報共有を密にし、支援を共有できるように努める。	
		・教室の不足への対応。今年度教室として使用する被褥に冷房設備を設置。長期にわたる教室の建て増しによる教室の確保・設備の設置、改善。	○教育施設調査へ要望、現地調査 ★教育施設調査	A	被褥室の半分を仕切った高等部の普通教室と、教室数の不足に対応した。PTA研修会等でも生徒などの、特別支援教育の方針決定が先決とされた。	しなほ特別支援教育魅力化プロジェクト(R3～12)まで、教室不足や狭小化への対応の検討(R4年度から着手)とされており、本校の現状や環境のニーズを踏まえた改善を求めている。	○人権・同和教育 児童生徒の呼称について、呼び方を統一する意図を理解し、努力することも必要である。
事務	①施設・設備の面から学習環境を整備、改善する。	・教職員の人格意識を高める取り組みをする。	○安全点検や学部・セクションからの要望 ★修理、交換、設置工事の実施	A	コロナウイルス感染症対策として、トイレ手洗いの自動水栓化など多くの設備を行ったほか、ポアや給排水の不具合が生じた部室修理を行った。	長期休業中に長時間でできるミニ研修を、数回にわたって実施する。児童生徒の呼びかたを2回実施することができた。また、アンケート結果をもとに、人格意識を高める目標を作成した。また児童生徒の呼びかたに関して統一できないという意見が多い。	
		・教職員に向けて、人権・同和教育に関する情報を発信する。	○通信の発行 ★年2回	A	「通信」2回発行できた。新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見、差別に関する情報やハラスメントに関する情報をメール等で配信した。様々な人権課題を知りたいという意見があった。	様々な人権課題についての情報をメール等で配信していく。	

B

## ②児童生徒が学ぶ楽しさを味わえる授業づくりの推進

実践支援	②主体的な研修や研究会の充実を図り、また、地域の研修内容の情報共有を図りたいことで、教職員の資質向上に努める。	・教職員が主体的に学ぶことができるように、校内研修推進、様々な研修や研修会の設定・調整、情報提供等を行う。	○アンケートの実施 ★肯定的意見9割	B	・教職員が主体的に学ぶことができるように、全体研修、公開授業研究会、夏期セミナー等を計画・調整し、実施した。密にならないよう感染症対策を講じて実施した。アンケートで肯定的意見を得た。	・今年度は夏休みが短くなったこともあり、夏期セミナー期間中に教科会と研修会であり余裕がなかった。各学年の研修を精選して、年間計画に内泊に実施できるように調整する。	○地域連携 益田養護学校の「地域」はどこの地域と連携するかも大切である。
		・専門家による訪問指導(外部講師、WINDによる機関コンサルテーション)を実施し、関係機関と連携しながら、児童・生徒の具体的な指導、支援について学ぶ機会を確保する。	○指導・支援の経過と見直し等、記録を通して情報共有する	A	・専門家による訪問指導(1回先着3回、加藤先生2回、ワイド2回)を開校連携と連携しながら、年間計画の回数実施し、児童・生徒の具体的な指導、支援について学ぶ機会を提供できた。	・本年度は専門家による訪問指導を継続し、年間計画の回数を実施できるようにする。また訪問日中に内泊に実施できるように調整する。	
教育相談	②特別支援教育に関する地域のセンター的役割を果たし、益田地域の特別支援教育の充実を図るとともに、本校の取組や障がいに対する理解啓発を推進する。	・「まず3D学習会(月1回程度)を開催し、特別支援教育に関する情報提供・教材や書籍の紹介を行うとともに、益田地域の幼、小、中、高等学校等の連携を深める機会を確保する。	○教材・書籍の紹介 ★開催日に毎回 ○教育相談だよりに掲載の様子を掲載 ★年2回	A	・小学部の教材や書籍を紹介することができた。校内の先生方には個人で購入されている書籍も紹介することができた。また、教育相談だよりで取り組の様子を掲載し、先生方にメールでお知らせするともいって閲覧できるようにすることができた。	・今年度は、コロナの影響で十分な回数が設定できず、外部の方と連携を深めたいというところがあった。参加者のアンケートも活かしながら回数や種類、内容など検討し、地域のニーズに応じた学習会を目指したい。 ・校内の相談体制についての要望もあるので、今後検討していきたい。	
		・「ボランティア養成講座」「作業学習ボランティア」を開催し、地域のボランティアやボランティア養成講座、作業学習ボランティアの取組の様子を掲載し、先生方にメールでお知らせする。また、ボランティア養成講座参加の方の児童生徒と関わり、というニーズを充分に汲み取った。	○取組の様子をHPに掲載 ★年2回以上(ボランティア養成講座、作業学習ボランティアの取組など)	A	・取組の様子をHPに年2回以上掲載し、本校のボランティアの様子を発信することができた。また、ボランティア養成講座参加の方の児童生徒と関わり、というニーズを充分に汲み取った。	・今年度、年度途中でボランティアの希望を受け付けた。来年度も柔軟に対応しながら、本校のニーズと児童生徒のニーズを調整しながら計画していきたい。	
小学部	②各児童が主体的に授業参加をし、自ら題材や教材、周囲の人などにかかわりを持ち、思いを伝えたりするための指導・支援の工夫と充実を図る。	・個々の実態や興味・関心に応じた指導・支援を行うために、学期に2回程度、学期中に短時間の研修を行う。	○研修の実施回数 ★学期に2回程度	A	・各学期に2回以上研修を行うことができた。しかし、研修の内容が必ずしもニーズに応じたものになっていないところがあった。	・今年度の学部運営の反省の中で、見直しについて学習時間がないという意見があった。そこで、「児童生徒が学ぶ楽しさを味わえる授業づくり」という視点をもって、各学級の児童の様子や上手い授業の情報交換ができる場を設けたいという思いをもち、今年度は、小学部では、今後校内の教員をリソースとして捉え、人と人とのつながりや学びの場を確保していき、また、校外の人材も活用できるようにしていきたい。	
		・自分から周囲の人や物にかかわりを持ち、思いを伝えたりするための指導・支援の工夫と充実を図る。	○評価項目にある授業の実施回数 ★年2回程度	A	・感染症のこともあり、最小限の活用にとどめた。その中でも、貼つみ体験や読書会などを実施し、児童生徒にとって興味のある教材や教材を準備し、児童生徒の学びを促すように努めた。また、校外の人材も活用できるようにしていきたい。	・今年度の学部運営の反省の中で、見直しについて学習時間がないという意見があった。そこで、「児童生徒が学ぶ楽しさを味わえる授業づくり」という視点をもって、各学級の児童の様子や上手い授業の情報交換ができる場を設けたいという思いをもち、今年度は、小学部では、今後校内の教員をリソースとして捉え、人と人とのつながりや学びの場を確保していき、また、校外の人材も活用できるようにしていきたい。	
高等部	②生徒自身が積極的に「人・物・事」に係わり、意欲的に学習に取り組む学習環境の設定に努める。	・「地域の人や物などの資源を活用し、生徒自身が社会の一員であることと自覚し、積極的な人・物・事と関わるとする学習内容を設定する。	○年に1回は地域資源を生かした学習内容を設定する。 ★実績	B	・各学年、地域資源を活用した学習に取り組み、地域知ったり、卒業後の生活を豊かにするための話を聞いたりすることができた。再就職という方向にも地域を生かした学習に取り組み、理解啓発を進めていく。	○活動や学習の目的を明確にし、どの部分で地域の方を責めたいのか、どの学習でどのような力を付けたいのかなど、地域の方にも伝え学習を進める。	

A

## ③児童生徒の障がいの状態や発達段階に応じた広がりあるキャリア教育の推進

教務	③キャリア教育について各学年で取組を整理し、各教職員が理解を深めて推進することで児童生徒一人一人の実践を積み上げる。	・各学年でキャリア教育の取組をまとめる。地域知ったり、卒業後の生活を豊かにするための話を聞いたりすることができた。	○各学年でキャリア教育の取組をまとめる。地域知ったり、卒業後の生活を豊かにするための話を聞いたりすることができた。	A	・推進委員会での意見を経て、セクションで当初の作成予定の年間計画計画を作成する。また、キャリア教育についていかに指導内容を付け加えたものが活用できると考え、「ついでに」と指導内容を追加した。	・キャリア教育の推進委員会での意見を経て、セクションで当初の作成予定の年間計画計画を作成する。また、キャリア教育についていかに指導内容を付け加えたものが活用できると考え、「ついでに」と指導内容を追加した。	○キャリア教育 保護者、職場を含めた地域とつながることで将来の生活を考える上で大切である。
		・キャリアパスポートを学ぶにつくツールとして活用している中で適切な評価を行い児童生徒一人一人のキャリア教育の充実を図る。	○キャリアパスポートの記録を年度末に各学年で閲覧するなどで共有。★学部会等の機会を設定、実施の可否。	B	・キャリアパスポートのスタートアッププログラムの作成、ファイル配布、推進委員会での情報交換を通じて、児童生徒にとって意味のあるパスポート作りを目指して取組と情報共有を並行して行っている。初年度でもあり、どのように活用できたのか事例を収集し3月の学部会でも整理したものを閲覧する。	・今年度作成するキャリアパスポートの冊子を基に、年度当初からキャリアパスポートの事例を参考にしながら本校の実践事例の蓄積をしていく。年度中に取組を整理し、学部毎の基礎資料として整理しているのなどのキャリア教育の活用の実践も整理していく。	
寄宿舎	③生徒一人一人の実態を把握した目標設定を行い、家庭と連携した支援に努める。	・集団の生活場場をおとして自分の気持ちを支えたり、受け止めてくれるような活動を設定する。	○計画的に学習会を設ける。★毎月1回	A	・寄宿舎のルール確認や性教育、あいさつ運動、食育、キャリア教育の取組も兼ねながら学習会を行うことができた。学習会の中にも日々の子の生活の悩みや思いを聞き、保護者や学校と共有することができた。	・集団生活の中で日々の舎生の様子を共有しながら状況に応じた学習会を行う。	
		・舎生一人一人の実態を把握した目標設定を行い、家庭と連携した支援に努める。	○舎生だより★年10回発行	A	・年10回発行を達成。上記の学習会の様子を保護者に発信できた。今年度から学校の先生へメールで読んでいただくことで寄宿舎の様子を知ってもらうことができたのではないかと感じる。	・引き続き、舎生だよりとおして保護者や学校の先生方に寄宿舎の様子を発信していく。	A